

水源禪師法話集 69

(2016年10月9日 山梨合宿2日目)

2017年5月17日

一乗禪の会



目次

質疑応答	3
『海印海潮禅』 観音様・蓮の花【阿弥陀の国】へ.....	3
阿弥陀の国に行くには、必ず孔雀が出迎えてくれる.....	5
水源禅師の体験から、南伝の 28 仏しかないと言うのは納まらない.....	6
電磁波は重力と同じ公式を持っている、そしてUFOも、、、.....	7
禅師が観た宇宙は物質の中に全宇宙が入る複雑で不可解な状態.....	8
南伝では秘密の行を絶対に教えない、言わない 水源禅師は行によって体感された.....	9
素晴らしい仏達は今も生きて私達を見守ってくれている.....	11
【ジャータカ物語】 第 78 話.....	11
お釈迦様に頼まれた大目蓮から諭された「超ドケチな大金持ち」がそして預流果に.....	12
この人はこれが初めての事じゃないのですよ.....	14

質疑応答

『海印海潮禅』 観音様・蓮の花 【阿弥陀の国】へ

【水源師】

忙しいところを時間を割いて下さって、こうして皆さんと一緒に修行出来ると言う事は本当に素晴らしい事ですね。今日は本当に夢の様な出来事が発生して、本当はまあ来年にしようかなと思っていて、海印海潮禅ね。でもEさんが「本当に知りたい」と。いやあ、その願いがあつて、海(湖)は寒いし、どうなるんだろう？と思いながら、それでHさんが機転を利かせて、何とか皆さんと一緒にセットアップして。それでこう瞑想しておったら、波が広がり来て、けれどこの波は良いのかなあ？という感じでした。上手く行くのかな？どうかな？と思ったのだけれども、思わぬ天界からのご褒美が今日来て、私も超びっくりです。

阿弥陀の国に生まれるには、蓮の花から生まれるというのですよね。蓮の花。そう言われています。このちっちゃい蓮の花からどうして生まれるのだろうと、私は思っていたけれど、いや今日観たら、山のように巨大な観音様がこう右手で巨大な蓮の花を持って、私達はこんな小っちゃいのです。皆、このでっかい蓮の花に、悠然と座れるくらいでっかい蓮の花。私達は蓮の花の中で、小人よりも小っちゃいでしょう？これを観る前は どうして、こんなちっちゃい中に生まれるのかな？と。やっぱり、そういう風に時空が違えば、全然違うのですね。「あ、なるほど、こういう事なのか」と。やっぱり人間が頭で考えているのと、実際に観るのとでは違うのですね。明快、明快。

一番、嬉しかったのは、最初遠くから観たら、皆さん浄土にいるのですね。こう皆こう座るでしょ、私が近くから観ると。そしたら皆さんこう一緒に座ってるわけ。浄土に。私一人。それで遠くから観たわけです。遠くからでも、皆さん一緒に浄土に座っているわけ。「いやあ、嬉しいなあ」と思って。やっぱり青龍がスーッと出て来たのだけれども、ちょっと緑が点々があつたかなという。青龍。「ああ、龍神様のご褒美くれたのかな？」と。

それで、2回目の時、またスーッとやったら、あの湖から巨大な観音様がスーッと大きくなってね、出て来てピンク色の衣、白いピンク色でそれがこう純白に変わって行って。それで蓮の花をこう持って、私達がぜーんぶ、蓮の花の中に座って、こう見つめられてるのですね。非常に綺麗な方。世にもないくらい綺麗な。見られなくらいスーッと巨大な。ブラフマンみたいな感じ。ブラフマンというのは非常に巨大な生命体みたいで。

【参加者】

妙音観世音？

【水源師】

観音様。もう全世界の神様。言葉では言い表せないくらい。お釈迦様がよく、こう誉め讃え

られている菩薩様で、全ての仏を助けられるという凄い方。だから、私としてはとっても嬉しいです。一人も漏らさず、皆一緒に座っていましたから。差別なしでこう皆一緒に。良かったです。そういう事で、皆さん良く頑張られて、本当に何かとても頼もしい事です。お釈迦様もこうして、こう僧院では、皆がお堂に集まってガヤガヤ話していたらですね、タカタカタカって入って来て「一体、どんな事話しているの？」という事から始まって行くわけですね。このジャーカタ物語。その昔のこの南伝の方では非常に気さくな方だったみたいで。こういう風な語りかけでお話して行くみたいで。

今日は何かリクエストありますか？ こういう話、聞きたいとか？



阿弥陀の国に行くには、必ず孔雀が出迎えてくれる

【参加者】

先ほどお経を聞きながら思ったのですけれど、上座部仏教には阿弥陀様とかはいらっしゃらないですよね？

【水源師】

そこなのですよ。でも、上座部仏教ではカクサンダー仏陀が現行第一仏で。それで必ず一番目に入って、西から入って西から拝むのです。それで私が、インレーレイクに行った時、湖の上、中にお寺があったでしょう？

【参加者】

塔が立ってるやつですか？

【水源師】

塔も立っていますし、湖の上にお寺があったでしょ？

【参加者】

金箔が貼ってある？五体の……。

【水源師】

そうそう。それもあるし、4、5件建ってませんでしたか？それで、他にもお寺があるのですよ。それで湖の前に鳥が待っているでしょ？

【参加者】

塔の？

【水源師】

そう塔の上に鳥。ガルーダ、カルーナ。ガルーダと言う発音だけれど、カルーナかガルーダか、慈悲の鳥。愛の鳥。不動明王ではカルーナになっているけれど。その昔、私が阿弥陀の国を観た時に、連れて行って貰った時、鳥がまず出て来る。孔雀の鳥が。それでその宮殿はね、湖にあるのですよ。それで、インナーレイクに行った時、「わあ良くまあ、似てる事！」びっくりして。まず鳥が出迎えているでしょ？実際は私の場合、孔雀が出迎えますね。サーッと孔雀が出て来る。

そしたらあの西本願寺の奥殿。何か特別な信者に公開されて、順番があって、最も大切な奥の間があるのですね。行った事ありますか？

【参加者】

ないです。奥の間は。

【水源師】

ああ、そう。ダライラマ様も謁見された何とか。それでやっぱりその一番大切な奥の間には、やっぱり私の見た情景、私は経典も何も読んだ事はないのです。やっぱりこう水の上の一角、こう欄干があつて回廊の道路、渡してみたいな屋根の下の廊下があつて、それで孔雀がやっぱり居る。孔雀。それで必ず、阿弥陀の国に行くには、必ず孔雀が出迎えてくれるのですね。私の場合は。色々他は違うかも知れない、その宮殿。やっぱり本当にこの世の天国かという様な所で、天界でも食べ物は一切いらぬのです。自動的に好きなものは何でも出て来るわけ。天界は、生活は一切心配ない。まあそういう非常に良く似ている所で。さっき、Cさんが聞きたい事はこういう事で良いのでしょうか？

水源禪師の体験から、南伝の 28 仏しかないと言うのは納まらない

【参加者】

何時、テラワータでは、阿弥陀様とか観音様とかいらっしやらないのは、一体どこから生まれたのかな？と言うか…

【水源師】

そうそう、それがやっぱりね、私の先生の話では、2000 年頃に、このお経が出来たという事なのです。調べて行ったら。それで結局、観音様のアバターになったホータンの第三王女、妙善という方、お話したでしょう？その方がアバターで、2250 年前にそのお母さんが夢を見て、凄い宝石が大地から上がって凄い夢を見て、この王女が生まれて、このお方が身代わり、アバターになって現世のこの地球の観音様になっていると。それでこの水差しあるでしょ。花瓶。この花瓶に柳の葉が出れば、私がこの世を去る時期だというお話したでしょう？この花瓶の事なのです。

【参加者】

お堂にありましたね。

【水源師】

はいはい。ここにもあるでしょう。これは実際の話みたいで、それで南伝には28仏しかない。それ以上は絶対ないと。でも問題があるのです。南伝では「涅槃に入ったら絶対もうこの世とは関係無い」と。ところが私の現象を観たら、実は宝生仏はお釈迦様だったという事が、一番古いカクビハーラ(カクパゴダ Kakku Pagoda)に行つて分かったのです。カクビハーラはアショカ王時代に再建されて、一番最初、お釈迦様が昇天されて百年後に出来た一番古

いお寺と言う話も聞きました。この点は学者の文献と実際はどうなっているのかはあやふやなわけです。

結局私も不思議に思うのは、私の体験では、28の仏では、私の生命体からして納まらないのです。私の体験からして。何故かと言ったら、実は私は無色界に生まれた事があるから。無色界に生まれる前に、仏に出会っているから。この時空関係はどうなっているのか、これは誰も未だに解明されていない。まあ物凄い話が、このジャーカタ物語みたいに話せば、仰天する様な話が出て来るから(笑)。あまり、言わないし、これはもう私の体験からの話で、観た話です。結局、アートマンというか、もう永遠に続く生命体の中で。

やっぱり孫悟空のお話をしても、『宝生仏と法に生まれる』と、孫悟空の西遊記では、『宝に勝つ』という仏になってるわけ。それでこれが違うのかな？と思って、そしてこの仏は、宝に勝つ仏は、三蔵法師がちゃんと経典を持って帰る様にいつも見守っていると。その西遊記の国は、これは宝石の国と牛の国だと書いているわけ。やっぱりインドは宝石を作る所で、牛の国でしょう。それで、昔書かれた創作にしる何にしる。それで実態にしる、私が実際に宝生仏、南の仏というのは文献じゃないのですね。何でかって言うと「説明しろ」って言ったって、それだから仕方ない。『南方の宝生仏』という事はすぐ分かる。もう明快に、バーンっとそんなものではない。

それで「私、宝生仏と全然関係ないのに」と思ったら、ゴータマブツ様だったわけね。それでそのお釈迦様は中国に経典を渡そうと思って、実際に10人お坊さんがいれば9人命落として、たった1人が中国に持って来たという強烈な話みたいです。というのは、昔は山賊も居れば、人間を食べる夜叉もいっぱい居るし、そういう事で確かにここが大問題で、私も実際には第一禅定に入った後、黄河砂数の仏を観ました。大乘に書いている様に。ウワーツと沢山の仏が、全宇宙の。一つじゃないですね。もう。それが結局、正覚された仏とまた皆さんが仏陀になられる。人間が正覚すれば、でも教えられる仏とはまた別で。その意味もあるかも分からないけれど、本当にもう宇宙の数えきれない仏がサーツと観えました。

だから結局、南伝の経典も正しいし、それで私の体験を見たら、北伝の方もあるわけです。だからこれは北伝と南伝が「そうじゃない。こうじゃない」とやっているわけ、未だに。これは私としてはあって当然と思うし。

電磁波は重力と同じ公式を持っている、そしてUFOも、、、

宇宙観もね、私達は100年前は宇宙というのは、子供の時、私達の精神界では、地球が真ん中で、星がクルクル回って、太陽もクルクル回っている地動説じゃないのですね。それがガリレオガリレイがそうだと言っても、ゆっくりゆっくり浸透して来て、私の小さい頃は、この地球の地の果てに行けば、大洋の水が落ちて行って、船も落ちると言う話がまともにされて(笑)。小さいから、地球が丸いというのも分からないから、もうゾツとする様に感じたわけ。

それで、その宇宙というのは100年前は、この銀河、このミルキーウェイ。これが大宇宙であってそれ以外はなしだったけれども、パロマ天文台が出てから、他の銀河系が発見されて

拡がったわけです。今度、宇宙の時間帯も、光のスピードで計って膨張しているから、ゼロから膨張して、今のこう計算したら大体 14BillionYearsだから…。

【参加者】

140 億。

【水源師】

そうそう、140 億。ところがね、このゼロから発生して膨張したという理論が今崩れ去って、実はその時間帯は非常に長い想像を絶する時間帯(100兆 単位 以上)であるという科学的な検証が出始めている。たった 140 億か、150 億、136 億とかそういう数字が出てますけれど。その光のスピードで。それで光のスピードも実際に 1 秒間に 30 万キロメートル、宇宙全体がどこでもかという事が今、狂い出してるの。特にアインシュタインのどうしてエネルギーが光のスピードの2乗にするのかという根拠が、これがどこから出たか誰にも分からない。何故これにしたのか、誰も。ただその自体は、それで計算すれば宇宙の観念があるけれど、今はもうはみ出てしまっているわけ。

それで結局、重力あるでしょ？重力。アインシュタインが一番苦労したこの重力のこの原因は何であるか？と。この重力のGの力は、この地球の物体と太陽の物体の掛けたものの α にしましょう。この公式が、電磁波あるでしょう？電磁波。一緒なのですよ、一緒なの。ただ名前変えただけで。という事を科学で誰も言わないわけ。ただ物理学は物理学、電磁波は電磁波。だから、アンチグラビティーという事は絶対私達は出来ない様に考えてるけれども、実際に何故アンチグラビティー＝反重力を、磁石を使う様に作るのか？と。そうしたら、電磁波、磁石の力は重力と同じ公式を持ってるわけです。

それで、ピンと来たのは、また UFO の話になって、おかしい話になるけれども、電磁波を切る様に作っているわけ。電磁波で重力を切る様になって浮くと。これは 1920 年、もうドイツがその情報を持っていて、1940 年かな 30 年か？1940 年そこらで、フランクリン・ルーズベルト大統領がイギリスのチャーチル首相に「どうも、ドイツは突然浮かぶ物体を持ってる」と。「調べてくれ」と。今は、もう分かっているわけ。ドイツがアンチグラビティーの飛行隊を持っていた。今もうそれは、殆どもう秘密ではなく、それがどうもこの磁石のこの電磁波を使って浮くという事が今討議されているわけですね。

禪師が観た宇宙は物質の中に全宇宙が入る複雑で不可解な状態

という風に、さっき言った宇宙の時間帯は一体本当にそうなのか？どうなのか？今分からない。特に宇宙の外にまた宇宙があると。実際、私の瞑想でそれが観えるわけです。合わない。だから、私が観た当時にはもう言ったけれど「宇宙あるよ」って。それで、ところが今現代科学ではそこの方向になっているわけ。宇宙の他にも宇宙があって、いっぱいあると。ところ

が、私の観た宇宙はもっと複雑で、物質の中に全宇宙が入る様なもう不可解な状態になっている。

だから私達の今現在考えている科学的な理論では、到底追いつけない。これもまた、よもやま話ですよ。外宇宙生命体からの報告では、「私達は殆どもうアリさんぐらいの知能しかない」と。「殆ど何にも知らない」と言ってる。それは、分からないけれど。ただ過去の不思議な太古の文明、未だに数千トンの石をどうして持ち上げるか？それでピラミッドも1度の狂いもなく東西南北、綺麗に決めてるとするのは、現代科学では出来ない。現代技術では出来ない。紙の上では出来ても技術的には出来ないと。実際そこにあると。それで、結局キリスト様が壁の中を通って行ったと。それは仏教でもやるカシナの瞑想を使えば、それが出来るのですね。その神通という事で。でも、それよりも一番大切な事は、法を求めることにあると。

(太古のエジプトの寺院宮殿の壁に【人間は科学知識を研鑽する事よりも、心の進化の過程で法を体得する生きる道を進みなさい】と書いてあります。)

南伝では秘密の行を絶対に教えない、言わない 水源禪師は行によって体感された

それでさっきのその阿弥陀経の事だけれど、私もCさんが言っていた様にそう思っていた「どうも違うんじゃないか？」と。南伝では無いし。ところが、法然上人が体験された『名号一万回を49日か何日か伝えたら、突然水が現われて、そして太陽みたいな光が差して「カシナ似てるな」と。カシナの行法に。そして突然、そこの中から氷が上がって来ます。クリスタルですね。私の場合はクリスタル。それで、そこを見たら阿弥陀の国が観えた。私はその経典を読んだ事があります。

そして、私が海を見ていたら、観音様のお力かと思います。それで韓国で一番有名な東海第一道場、海印寺になっているわけです。東海というのは東アジア。それで、『海印』と海の印。何で海にハンコを押す道場なのかと。いやあ、観ていたら潮が海辺の近くでクルクルと回って、まさに海にハンコを押した様に、そしてスーッと海から緑のクリスタルが出て来て、スーッと入って行ったら「あらっ？」と。という風に前に体験してますから、「あら、阿弥陀の国だ」と観たわけ。

濟州島に五百阿羅漢というお寺があります。それはどれくらいの古いお寺か分かりません。五百阿羅漢という。そこは冬になればね、氷が真四角で丸いのではない。真四角でスーッと四角で長方形の氷が水桶の中から上がって来るのですよ。

だから一概に経典だけでは解決出来ない、特に南伝ではね、秘密の行は絶対に教えない。言わない。私はもう破戒僧で、もの凄い秘密を発表したのだけれど、絶対にあなた達が今まで聞いた事は全部ご法度。殆どご法度。でもこれを私達は『空、空、空』と言うでしょう、『空』、スニャター(suññata)。これは南伝では最大の秘密なのです。言わない。

という風に一般的な教えと、それから一般的に本に書かれている経典と実態は非常に激しく違います。南伝にはもっと凄い行法があって、それも垣間見ましたけれど、私は非常にラ

ッキーだったから教えて貰ったけれど、想像を絶する行法があるのです。本にも言った事も聞いた事もない、でも絶対にお坊さん同士でも見せない最高の秘密があります。

だからそういう事で、私は阿弥陀の国を観ましたし、体験したし、大感激したし、観音様も体感出来たし。だから南伝では経典が発見されないと。だからその点は、何と云うのでしょうか？私は、南伝も北伝も密教もまた凄い物があります、私の体験上。でも詰まる所は、涅槃に行くという事で。南伝の方はサティパッターナ(satipaṭṭhāna:念処経、四念処経)で実際に涅槃に行く道が本当にあります。でも、大乘の方は言葉をいっぱい並べているけれども、それを明快にどうして行くかは書いていない。南伝では「それを体感出来る」と書かれて、その通りになってる。だから、南伝の方から見たら「おかしい」となるわけ。「因果関係も絡んで来るから、そう簡単なものじゃない



素晴らしい仏達は今も生きて私達を見守ってくれている

でも、それもね、五百阿羅漢と言うし、全て何でも伝わったのか、何回も国を滅ぼされて。それからブッダゴーサが出るまでは、ブッダゴーサというのは清浄道論を書いた阿羅漢様。昔の散り散りになった経典を集めた。それからまたもう一つ、龍樹菩薩様。凄い方ですね。この方は神通を使って海底の底の龍の国に行って経典を持って来た。それでもう一回揃えた。その間にでも、南伝の方はシンハリという国が滅びて、スリランカに来て、王国を作って、そしてやったけれど、やっぱりお祭りをやるわけですね。お祭りで本当の瞑想というものが廃れて分からなくなって、大体チャンティング、チャンティングで。それでお布施を受ける、修行も出来ないからしない。経典、その経典も本当かどうか分からない。それで、西暦 400 年にブッダゴーサ様がインドからあっちの経典こっちの経典を集めて、パーリ語で再建しようとして、今出来たわけ。

それで、そこには本物があるから、やっぱり凄い事が発生し始めて。しかも千年前に生きているお坊さんが今も生きてるし、もしもボディ達磨様が本当に死んだかどうか、私、確認出来ないのです。彼が死んだ後で、インドから菩提達磨大師様の下で勉強したという人が、六祖大師が顔を洗っている時に助けに来てるわけ。というお話したでしょう？パミール高原で達磨大師様が草鞋をぶら下げて歩いてたと、もう一方の草鞋は少林寺 250 年間に飾ってあったわけですが盗難で亡くしたと言ってました。実際、皇帝の命令で墓を起したらそこにあたという草鞋です。

それで達磨大師の座っている洞窟を行ってみたのですね。そして達磨大師様は石の前で座っていて、彼の顔が投射されているわけ、そこに。達磨石と。まあ中国では有名だけでも、その事を私は知らなかったのです。ま、それは嘘だろうと、それでおしまい。まあ中国の人は絶対的に信じてそこにあります。で、また孔子様の開いたコウヨウ館がその近くにあるわけです。孔子様だから、2500 年、面々と続いているのです。それもまた「嘘だろう」と言ったら嘘になるし。学者の論理で言って検証されるのかどうか。

【ジャータカ物語】 第 78 話

それはだからそういう事で、やっぱり今日起こった事は本当であると思います。何故かと言ったら、その昔、お釈迦様の時代にですね、非常にケチケチケチケチのガリガリ亡者の大金持ちの何というのでしょうかね、金融の大富豪がいて(ILLISA-JĀTAKA No.78)。それでまあ国のお金も全部、王様の。まあ今の大蔵省の大臣みたいに、そんな人なわけなのですね。それでこの人は一滴の油でも、草に落としたり、それを取って絶対に捨てないケチケチで、人に分け与えるという事は絶対にしないわけ。この人が、ミリオネアマイザー(millionaire miser)と英語で言うけれど、「超大金持ちの最もがめつい男」という、日本語で言えば、そういうタイトルになるかもしれないけれども。「ミリアオネアマイザー」というタイトルで、それでもう大評判なわけですね。

ところがある日、宮殿から帰って来る時に、ある町を歩いていたら、美味しそうなかぼちゃのチーズケーキみたいなのを人が食べてるわけ。「いやあ、食べたいけれど、私がそこで食べたら皆が見て、私は超大金持ちだから、皆に食べさせなきゃいけない」と。それで我慢して、家に帰って来て、「もうでも食べたい」と。枕を抱えてじーっとしててるわけ。言えないわけ。「それが食べたい。」と。もう身体の血管が浮き上がっても我慢して言えない。

それで奥さんが「旦那様、どうしたのですか？王様から怒りを買ったのですか？」と。「いや、そうじゃない」と。「じゃあ、何かうちの召使が、何かちょっと無礼でも働いたのですか？」「いや、そうじゃない」と。「一体、どういう事なのですか？」と。「言えない」。「いや、あなたこのままでは衰弱するから、この深い心に何か罪か何があるのだったら、言いなさい」と。「私が聞いてあげるから」と、そしたらやっと「実は、かぼちゃの」、これお釈迦様の本当の話。「かぼちゃのチーズケーキがとっても美味しそうで、それを食べたい」と。「蜂蜜とメリケン粉とチーズも入って、本当に香も良くて、食べてみたい」と。「何だそんな事ですか。旦那様。それじゃ、町中の人に食べさせるくらいいっぱい作って、皆に分け与えましょう」と。「お前、私の家を何だと思ってるの？」と。「そんな、金を皆に分け与えるくらいの、そういう恐ろしい事は出来ない」と。

でも、この人はね、現代のお金で換算したら、80コレルという金塊を持ってるわけ。何トンになるか分からないけれども、ちょっと私、この話から計算してみたのです。そしたら、何と8000億円！ハッハッハッハッ(笑)。もっとかもしれない。だから凄い大金持ちなわけ。「じゃあ、分かりました。私達が住んでるこの町内の人の分も作って、一緒に楽しんで食べましょうよ」と。「いや、そんな事・・・そういう無駄な事、出来ない」「じゃ、この家のものだけで分けて食べたらどうですか？」「何の為に？何の為にそんな事しなきゃいけない？」「じゃあ、こうしましょう。私達の子供達と一緒に食べるのはどうですか？」「バカな！子供に分ける？そんな事は絶対に出来ない」「じゃあ、あなたをいつもお世話する召使と二人で食べたらどうですか？」「そんな事、何の為に」「じゃあ、どうするのですか？」「ちょっとだけ。私の分だけ作れば良い」って。「それはお安い御用です。作りましょう」「いやいや、駄目駄目。これを今ここで、作れば皆が見る」と。「何を作っているのか。そしたら、分け与えなきゃいけないでしょう。だから、こっそりと一番高い7階の天井の奥で作ってくれ」と。「それも、少しだけ」。

そして、奥様が隠れて全部用意して、少しだけの食料を7階に持って行って「料理をする番になったら、私が上がって行くから」で、奥さんが上がって行ったわけ。それで目の前で一緒に見ながら、こう見てそれが出来たら食べるつもりで。そして、1階上がったら、ドアをバーンと閉めるわけ。2階上がったらバーンと、3階、4階、バンバンバンと。絶対に誰も来れない様に(笑)。

お釈迦様に頼まれた大目蓮から諭された「超ドケチな大金持ち」がそして預流果に

そしてこう料理する時に、お釈迦様が遠いところから見ていたわけです。祇園精舎から大体1000km離れてる所らしい。540リーグと言ったら、1リーグ=2.7kmだけれど、2kmにして

1080 kmにして換算して、大体ね。それぐらい離れている所。インドはでっかいのですよ。でっかい。1000 kmいっぱいある。2000 kmずっと端から端。めちゃくちゃにでっかい。それでそこに行くと、お釈迦様は見ていたわけ。いやあ、ちょっとこれはあまりにもドケチだから。心は悪くないのだから、ただドケチで。こんな事して分からないから、大目蓮様、「お前、ちょっと何とかして、この人を助けてやる事は出来ないのか？」と。それで大目蓮が 1000 km以上離れた町にスーッと行って。

その時代はね、お釈迦様は空中を飛んで行って帰って来るみたい。それで寺院から離れて宿泊するという事は、まずしないみたいで。そういう事もあるみたいだけれども。カシナの行法を使えば、チベットのミラレパみたいに空中を飛べるようです。それで何回も話した様にカンボジアのお坊さんは空中を飛んでたわけ。これはカシナの行法。

それで大目蓮が、この超強烈な最高のケチの大金持ちのところの 7 階に、空中に上がってずっと見るわけ。もちろん、非常に正装して綺麗なきらびやかで、宝石きらびやか、聖者とすぐに分かる様な格好で、空中に。「いやあ、あなたが幾らそこに立ったって、何にもあげる物はないよ。早く帰らなさい」と言う。ところが、彼がこっち行けばまた上がって来る。「何回上がったって下がったって、あなたにあげる物は一つもない」と言う。「そんな窓際に来たって、やらないよ」って。ところが、スッと来る。このミリオネアマイザーが、煙一杯煽って追いだそうとするわけ。でも、空中に止まって動かないわけ、ずうっと。で、もう頭に来て「絶対にやらない」と。やる事が出来ない人間なわけ、絶対に。取る物は全部。出す物は絶対に出さないと。

それで、今度火が付くらいその家がね、それぐらい怒り狂って煙を煽りたてたのですが、大目蓮様が離れない訳なのです。奥さんに「よしよし。この大目蓮に、爪の垢ほどちょっとだけ作ってあげなさい」と。その同じケーキね。自分の一口。そしてその時に、じゃあ奥さんが「ハイハイ」と言って作って、スプーンで入れて作った、その入れるケーキを作る時に、ほんの少しなのに、凄いいっぱいになるわけ。旦那さんが「何で、そんなに作るの？」と言う。「作る必要ない。何でそんなにケーキの元ネタをね、こねた物がそんなにいっぱい作るのか？」と。「ちょっとだけ入れたら、こんなに大きくなったのです」って。じゃあまあ、ちょっとだけつまんで火にかざして、それをやろうと思って。そして、ケーキが出来たら、どんどん大きくなくなって行くわけ。それでもここからちぎって大目蓮様にあげようとするけれど、絶対に千切れないで、皆もうひっついてしまうわけです。

それで仕方なく「じゃあ、仕方ない。それじゃあこれもう全部お前にあげる」と。全部と言っても、小っちゃいものから大きくなったものを。「いや。私にくれるよりは、お釈迦様にあげた方が高德があって、それに 500 人の比丘達が昼飯を食べるのに待ってます」と。「それ、どこですか？」「祇園精舎です」「それは、そんな遠いところ持っていく前におかしくなる」と。「いや、大丈夫です」と。「あなたがこの階段から下に降りた時に、最後のステップが祇園精舎の入り口になりますから」と。

それで、ずうっと持って行って、お釈迦様のところに持って行った。それで、お釈迦様が諭したわけ。「いやあ、こんな事したら、良い事がないし。人に分けるという事は人生でとっても大切な事なのです」と。という話を聞いたら、ちょうど預流果の位に上がったわけ。ソタパナ

(sotāpanna)、聞いただけで。旦那様も奥様も。その預流果の位に上がった途端に、自分のやっける行為が如何にバカな事かという事で、もう布施を思い切ってとやる事にしたわけ。で、その後天界に生まれたと。

この人はこれが初めての事じゃないのですよ

それで、お釈迦様が言うには「この人は初めての事じゃないのです」と。「前の世も、王様の宮殿の大蔵省の大臣だった」と。現代の言葉で言うと。その時も莫大な 80 コレルの金塊を持って、今の 8000 億円かそこらになるわけです。その時もまたドケチで、絶対にもう『がめついやつ』という日本の映画があったけれども、それに 1000 倍かけるくらいがめつい生き方をしているわけ。同じ様に前世でも、油一滴落ちて、それを葉っぱで拾って集めるくらい。絶対に無駄にしないと。

それで、この人は先祖代々の家を継いで、家に住み着く使用人の家を焼き払ったわけ。「出ていけ」と。「食べさせる余裕はない」と。ま、こういう生き方をしているわけ。それで、この前世のイリーサ(IIIisa)という名前ですね、前世のイリーサというこの大金持ちが宮殿から、王様の所から帰ってくる時に、非常に喉が渴いていたわけ。そしたら、美味しそうな美味しそうなビールみたいなもの飲んでいるわけ。「いやあ自分も飲みたい」と。それが言えないわけ。同じ状況。我慢して、我慢して。それで奥様が来て、背中を撫でて「一体、どうしたのですか？旦那様」「いやあ言えない」と。同じ調子なわけです。前に話した様に。「いやあ、私が飲んだら、皆見て、皆にあげなきゃいけない。出来ない」と。

それでまあ、話を縮めて、じゃあ 1 ペニーで濁酒一瓶、お酒一杯、そのビール。だからペニーというのは 1ドルの 1 円なわけ。だから、その当時 1 円で買えるという換算で 8000 億になるわけ。現代で私が(換算すると)。円だけで。それ以上かも分からない。それでそれも、人に隠れて飲むのも、用意したり見つけれたら嫌だから、この召使に「遠い川の傍の藪の中に持って行きなさい」と。「そこに私が行って、こっそり飲むから」と。

そしたら、そのお父さんはその前、生前、良い事してるわけ。人に沢山お布施したり助けたりして。それで第二天のサッカ(sakka: 帝釈天)という天界の王様になっているわけ。あまりにも自分の息子がこんなに酷い、召使の家を焼き払ったり、金もぜんぜん人に分け与えないという事に怒り狂って。それで息子と同じ姿になって宮殿に歩いて行ったわけ。「王様、私にはこの沢山お金が有り余るほどありますから、全部王様にあげます」と。「いや、私の宮殿もいっぱいありすぎていない」と。「じゃあ、この金を町中の人に全部分け与えます」と、そう言ったわけ。

で、この本物のイリーサの大金持ちは、藪の中でこっそり、一杯楽しく飲んでいるわけ。それでその時に、町中にこのお父さんが化けて出て来て、天界の王様だから、神通があるから。同じ姿で召使達に「町中に報告しなさい」と。来る者には山ほど、全部、金銀ザクザク、真珠からルビーからダイヤモンドから、皆あげる」という御触れを出したら、人が山だけりて来て、次から次へとバケツとかいろんな物に積んで帰って行くわけです。

で、ある人がもう大喜びで「この大金持ちのイリーサという人は凄い高德で、永遠に生きて欲しい♪」と、歌を歌いながら行くわけですね。「100年でも、何年でも生きて欲しい♪」と。そしたら「何で、私の名前を呼ぶんだらう？」とスッと見たら、自分の牛車と牛を持って引っ張って歩いてるわけ。「これ、私の牛が」「何を言うか、この馬鹿者」と、叩かれて。それで、他が来たら、また他の牛も歩いて「これ、私の牛」また、叩かれて。

それで何とか自分の家に帰って来たら、門番に「一体、お前は何者か！」と叩き出されたわけ。というのは偽物の大臣が「もし私に似た人がいたら叩き出せ」と。それで、もうしょうがないから、王様の宮殿に駆け付けたわけ。そして「王様、実は私は人に与える気持ちは一つもないのに。私とそっくりな人がどんどん品物をあげているみたい」と。「いや、もうお前、宮殿に来て言ったでしょ？」って。「いや、私言っていない。あれは偽物だ」と。

奥さんも子供達も、「お父さん、気が狂ったのかな？あんなケチがドケチな人がどうして皆に分け与える様になったのか？」と。まあそういう事で、宮殿に呼ばれて見たら、瓜二つなわけ。それでこの本物のイリーサが「じゃあ奥さんと呼んでくれ。どっちが本物か？」と。そしたら、偽物の方に行くわけ。それで子供を呼んだら、偽物の方に。召使を呼んだら、全部偽物の方に行く。

その時ゴータマブッダが髪ゆいの床屋さんだったわけ。それで、本物は「私には秘密がある」と。このイボがあるから。隠れて。「この床屋さんだけが本当の事を知っている」と。で、床屋さんと呼んできたわけ、ゴータマブッダの菩薩の時ね。そして、頭をパッと見たらイボあるでしょう？そしたら、このキングサッカも神通があるから、ずっと同じところに作るわけ。もうどっちがどっちか分からないわけ。それでその時に、空中に上がって「実はお前を殺そうと思った。私はお前に全部財産やったのに、人に分け与える事も何にもしてない。今、お前はここで悔い改めなければ、インドラの落雷でもって一瞬にして殺してやる」と。「いやあお父さん、すいません」って。「実は悪かったです」と。天界のキングだから空中からこう言うわけですね。立って。それでこの高德によってまたお釈迦様の時代と同じ様な大蔵大臣になってやっぱり止められないのだけれども、結局そういう高德があるからお釈迦様が助ける事で、今度はソタパナにしてあげて、本当に7回目には必ず涅槃に行くという話です。

何か分かった様な分からない様な、神通を使うという事。本当に神通をお釈迦様は使えた。でも、その神通よりも法を得るという事が如何に大切かと。幾ら金を儲けても、本当の慈悲の世界とこういう事に出会えるという事はまずないという。だから、皆さんが今回、こうして一生懸命修行して、こういう私の目にはちゃんと見えたのですけれど、結局やっぱり何と言うのかね、こう修行してるからか、私だけに見せてくれたのか知らないけれど。ま、それをサポートするみたいに色々な現象もちょっと観たと。

という事で、実際にそういう世界があります。天界から観てるわけなのです。だから、法を求める人には何時でも恵みを与えようと。これが最大の福だと思います。



水源禪師法話集 69
(2016年10月9日 山梨合宿2日目)

2017年5月17日 発行

編集兼発行 一乗禅の会